

黄色粘着トラップをカバーする網目の大きさ及び色とチャノキイロアザミウマの捕獲数との関係

村岡 実 (佐賀県果樹試験場)

Minoru MURAOKA : Effect of Mesh or Colors in a Yellow Sticky Trap on the Trapped Number of the Tea Yellow Thrips, *Scirtothrips dorsalis* Hood

チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis* Hood が黄色に誘引される (村岡ら, 1986) ことを利用して, 黄色平板 (または円筒) 粘着トラップが本種の発生予察などに広く使用されてきた。これらのトラップの粘着材として最近「粘着シート」が日東電工(株)により製作された。これは黄色プラスチック板に両面テープで粘着シートを固定し, シート上層の紙をはがすのみで済み, またトラップの回収時も透明ビニールシートでカバーできるなど取扱いが簡便で, これまで主に用いられてきたタングルッドに比べて優れている。ところが本材にはチョウ, ハエ, セミなどが付着して本種の捕獲数調査に支障となることが多い。そこでこれら異物の付着を防止するために網でトラップをカバーする場合の網目の大きさ, 色と本種の捕獲数について試験を行ったので報告する。

1. 試験方法

佐賀県小城郡小城町, 佐賀県果樹試験場内で, カンキツ樹に隣接したイヌマキ防風樹とナシ園との幅約2mの空き地で, イヌマキとナシに面して4m間隔に粘着シートを用いた黄色平板トラップを5基設置した。トラップは黄色プラスチック板 (20×20cm) に粘着シート (15×20cm) をはりつけ, それを木棒で固定し, 粘着面が地上約1.5mの高さになるようにした。各トラップをカバーする網は, その目の大きさが3, 5, 10, 20mmの4とおり, 網の色は黄色と素地 (銀色) の2とおり, 計8とおりを各トラップの一面づつに, また対照 (無力カバー) を2面に割付け, いずれの地点のトラップでも全ての処理方法で本種の捕獲効率が比較できるようにした。調査は1988年6月21日から8月18日まで行い, この期間5~7日ごとにトラップを取り換え, 実体顕微鏡で本種と他の付着物を区別して各々の捕獲数を調査した。なお付着物は本種の調査に支障となる5mm以上の大きさを対象とした。

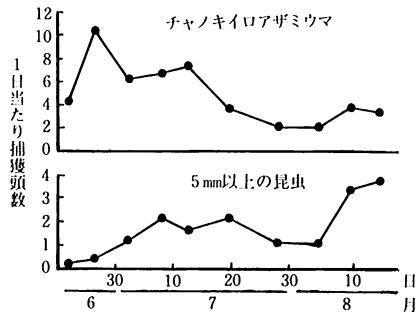
2. 結果及び考察

全トラップでの1日・1面当たりの本種及び他の付着物の時期別捕獲消長を第1図に示した。このうち本種の捕獲数は6月下旬に約11頭/日・面となったが, その後徐々に減少した。他方, 付着物はこれとは逆に6月下旬から徐々に増加し8月下旬に約4頭/日・面となった。付着物の多くはハエであった。

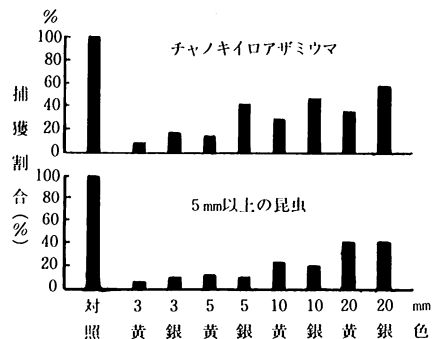
このように捕獲数が時期ごとに異なるため, 全調査期間における各々の処理での捕獲数を対照区に対する割合として第2図に示した。本種の捕獲数は対照区で最も多かった (576頭/全期間・面)。処理区間では同じ色の場

合は網目が大きいものほど多く, 同じ網目の大きさの場合には素地 (銀色) で多かった。しかし, 対照区に比べて処理区での捕獲数は少なく, 素地色の網でもその大きさが20mmで約60%, 5~10mmでは約45~50%であった。他方, 付着物は対照区で最も多く, 処理区間では色間での差はなく, 網目の大きさが大きいものほど多く, 対照区に比べて20mmで約40%, 10mmで約20%, 3~5mmで約10%であった。3~5mm目の処理区で付着がみられたのは網とそれを固定する木棒との間から虫が歩行侵入したためと考えられる。また同じ大きさの網目では素地に比べて黄色で捕獲率が低かったが, これは黄色の粘着面とカバーの黄色が競合したためと考えられる。

以上のことから, 黄色平板粘着トラップで粘着シートを用いる場合は網目の大きさが5mm程度の網でトラップをカバーすることにより, 本種の調査に支障となる付着物を防止し, 他方本種の捕獲率も比較的高く保たれるものと考えられる。



第1図 黄色平板粘着トラップによるチャノキイロアザミウマ及びその他の昆虫の捕獲消長 (1988年 佐賀県果樹試験場内)



第2図 対照区 (無力カバー) に対する各処理区での捕獲割合

引用文献

- 1) 村岡 実・中村秀芳: 九農研 48, 165, 1986.